

令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立 南部高等学校 龍神分校 校長名： 内川 さやか

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ① 地域との連携を深め、地元の自然や人材を活用した特色ある教育活動を通して、地元を愛し、感謝の気持ちを持てる生徒を育成する。
- ② 集団の一員としての自覚を持ち、社会や地域に貢献し、自分の意思で行動できる生徒を育成する。
- ③ 他者への思いやりを持つことができ、積極的に自己実現を図ることのできる生徒を育成する。

学校評価の公表方法

学校便りやホームページを活用し、生徒・保護者・学校関係者の評価を公表すると共に、今後の改善についても明記し共有を図り実現を目指す。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（2月17日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	社会と調和して生きることのできる力を育むため、連携型中高一貫教育や地域との交流活動に取り組む。	B	地域の小・中学校と合同で「田んぼアート」、「部活動指導」を行うことで継続的な交流を図る。	生徒が主体的・継続的に取り組む様に指導できていたか。	A	現状ではよく出来ていた。更に広げていきたい。	連携型中学校である龍神中学校との交流は積極的に行えた。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒の参加・交流が思うようにできなかった面もある。アフターコロナでは、各種地域行事の運営にも生徒を参加させたい。
			地域行事の「翔龍祭」「実業団駅伝運営」への積極的な参加。	実行委員会段階から参加させることができていたか。	B	現状よく出来たが、実行委員会への参加が出来なかった。	
			近隣の幼稚園と避難訓練を行ったり、農作物を育てる等交流を図る。	状況や個に応じて、考えた行動ができる様に指導できていたか。	D	今年度も計画の取組が出来なかった。	
2	地域に根ざし、地域に貢献しようとする心を育むため、「日高川でのカヌー体験」や「世界遺産巡り」といった自然や歴史・文化を生かした授業を行う。	B	「ネイチャー」の授業に加え、全ての授業において地域を意識した授業を展開する。	これまでの活動は継続するが、新たな取り組みにチャレンジできているか。	C	地域の学習に落とし込めていない教科がある。	龍神地区にある唯一の高等学校としての役割や地域連携を引き続き模索する。アフターコロナにおいて、地域の行事参加や地域の問題解決に向けて、高校生の力を積極的に活用してもらえよう、学校側から発信していきたい。
			龍神地区チャレンジ推進事業の高校生リーダーへの自発的な企画参加を促す。	日高川清掃事業等、高校生として企画立案から実行に移させ自己有用感を高めることができたか。	B	参加は出来ているが、能動的な取組となっていない。	
			龍神温泉や森林資源等を活かした授業教材を開発する。	具体的に授業において取り組むことができたか年度末に検証する。	C	観光協会と協働していくことが出来なかった。	
3	将来の進路実現に向けて必要な基礎学力を定着させるため、ユニバーサルデザインお視点を取り入れた「わかる、力がつく」授業を行う。	B	公開授業週間を設定し、授業研究会を実施する。	年2回以上の公開授業週間と校内授業研究会を実施。	C	1学期に1回しか設定できなかった。	1年間を通じて、教職員間で情報を共有し、基礎学力の確立とコミュニケーションスキルの向上を目指した。習熟度別学習を行ったり、教材の工夫をしたり、成果が上がっている。また、個に応じた対応も充実してきている。引き続き、教職員の授業力の向上、教育相談等のスキルアップのための研修を行う。
			習熟度別授業を積極的に導入し、基礎学力定着を図る。	国語・数学・英語の習熟度別授業を行う。	A	しっかり取り組めた。ICT活用を積極的に進めたい。	
			「ユニバーサルデザイン」「SST」について研修を行う。	1学期中に校内現職教育を行う。	A	現職教育当行い、しっかり取り組めた。	
4	将来の自分を見つめ、夢をかたちにする力を育むため、学期毎に進路セミナーを実施するなど、自分の将来について考える学習を行う。	B	インターンシップやソーシャルスキルトレーニングの実施	全員にインターンシップを実施すると共に、ソーシャルスキルトレーニングを行う事ができたか。	C	インターンシップが出来なかった。SST学習は出来た。	少人数の利点を生かし、個に応じた情報の提供と指導を行い、全員の進路実現を目指す。そのための教職員のスキルアップと指導方針の共通認識を図る。今まで以上に生徒や保護者との面談等を積極的に行う。
			大学や専門学校より講師を招き模擬授業の実施	各学年に合わせた進路セミナーを学期ごとに行うことができたか。	B	概ね達成できた。今後に向けて、職員の振り返りが必要。	
			3年生が後輩に、大学・就職試験について、体験談を語る会を実施	定期テスト時を活用して、学期ごとに行うことができたか。	A	3学期にまとめの発表を行うことが出来た。	

学校関係者評価（2月17日実施）

学校運営協議会から書面と口頭で評価をいただいた。評価内容は、教育目標・教育活動全般・施設設備・PTA活動・学校運営協議会・開かれた学校の6観点で、全てにおいて概ね「できている」評価をいただいた

（意見・要望）

小規模校で限られた教育資源の中で運営指導されていることに敬意を表しています。

スクールポリシー等の教育目標については特色を捉えたものとして、わかりやすく示されています。

教育活動についても、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、全般的にしっかり取り組んでいます。できていないネガティブな面にばかり目を向けるのではなく、今般の状況の中で取り組めた事に目を向け、今後を生かしてもらいたい。

地域のボランティア活動や文化祭などの各種活動への積極的な参加ができていて、教育目標を十分達成できていた。中でも、中高連携を行っている山間部の小規模校を、連携中学校の先生と一緒に視察訪問し、先進的な取組事例を運営委員とも共有し、これからの学校運営を考える上での貴重なものとなりました。

今後は今まで以上に情報発信に努めることで、本校の取組を広く知ってもらい、生徒や教職員の自己有用感を高める取組を進めてもらいたい。